

フェノム
phenom.

つづ
～コンピューターで綴る創作の世界～

音空間創造プロジェクト

清水 研作
福島 諭
田口 雅之

出演

清水 理恵 (フルート)
和田 朋子 (朗読)

▲ = speaker

2005 11.18 Fri.

りゅーとぴあ (新潟市民芸術文化会館) 能楽堂

19:00 開演 (18:30 開場)

前売：一般2,500円 学生1,500円 (当日一般3,000円 学生2,000円)

ヴェリタス (<http://www.veritas-mus.co.jp/>)
りゅーとぴあ (チケット専用ダイヤル 025-224-5521)
ヤマハミュージック関東 新潟店 (025-243-4311)

【チケット・お問い合わせ】 ヴェリタス ☎ 03 3905-0264

新潟市芸術祭2005

後援 財団法人新潟市芸術文化振興財団
(財)新潟県文化振興財団助成事業

主催 音空間創造プロジェクト

phenom.

音空間創造プロジェクトによって行われる創作空間コンサート、それが“phenom.”です。このコンサートは、会場に設置された複数のスピーカーやコンピューターで制御されるさまざまな仕掛けを用いた意欲的な空間で行われます。生楽器の演奏も交え、音とコンピューターの関係をユニークに展開してみせる新潟発のイベントコンサートです。客席を囲む複数のスピーカーで織りなす音の空間をお楽しみ下さい。

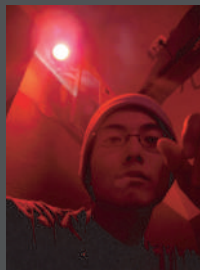
音空間創造プロジェクト

音空間創造プロジェクトは、2004年に作曲家清水研作（新潟大学教育人間科学部教授）と音楽家／プログラマーの福島諭を中心に設立され、当初から複数スピーカーを使用した音の空間創造を中心に研究を行ってきました。研究内容に“リアルな音空間の再現”と“作曲上の音楽表現の拡張”という2つの大きな柱を持ち、そのどちらもリアルタイム音響処理を用いることで、これまでの単なる記録・再生メディアとは違う表現領域を追求しています。2004年10月には、りゅーとぴあロビーにて、プロダクトデザイン、写真、音響とさまざまな表現を一カ所に集め新しい憩いの場を提供する試み「SUWARU」展の音響デザインを担当。

音空間創造プロジェクトの研究の軸となるのが、Max/MSPと呼ばれるプログラム言語です。Max/MSPは音楽に特化したプログラム言語の一つであり、現在世界中の多くの音楽家たちから厚い支持を得ています。音空間創造プロジェクトでは、Max/MSPを用いたワークショップに加え、ソフトウェア開発なども視野にいたした活動を今後も行っていきます。



清水 研作



福島 諭



田口 雅之



清水 理恵



和田 朋子

清水 研作 / SHIMIZU, Kensaku

アメリカ、ボストンのニューイングランド音楽院大学院作曲科卒業後、ハーバード大学大学院博士課程作曲科に特待生として入学、後に博士号を取得。作品は日本及び海外で広く演奏され、数々の作曲賞を受賞したほか、1990年にはウィニャフスキ国際作曲コンクールにおいて満場一致の優勝(2位なし)を果たす。96年には「サントリーホール10周年記念フェスティバル公演・特別企画ーオルガン歴史紀行」にて、オルガン作品がサントリー大ホールにて演奏される。00年 フランス、タロア国際作曲家会議に、01年トゥールーズ国際現代音楽祭に招聘。02年 パリを中心に活躍するディオティマ・カルテット、世界的フルート奏者ジャック・ソーンが新曲初演する。04年フルート・ソロの作品が音楽之友社から出版。コンピュータ音楽にも力を入れており、94年薩摩琵琶古曲研究会による委嘱作品、モノオペラ「銀杏散りやまず」(原作・辻邦生、舞台美術・磯崎新、演出・木戸敏郎)の作曲を担当。コンピュータ音楽の最新技術を駆使し、楽器とのインタラクティブな作曲を試み好評を博す。96年夏にはフランス国立の音響・音楽研究所(IRCAM)に召喚されコンピュータ音楽の研鑽を積む。98年再び選出されIRCAMでの講習会(Stage Program)に参加。現在、新潟大学教育人間科学部助教授。また作曲活動の傍ら、論文や音楽教育を新しい視点から捉えたエッセイも多く執筆し、講演なども多い。

福島 諭 / FUKUSHIMA, Satoshi

1977年新潟生まれ。IAMAS(岐阜県立情報科学芸術大学院大学)修了。作曲家、プログラマー。Max/MSPを用い、テクノロジーの介在した一回性の音楽表現を模索しつつ作曲を行う。また、即興演奏をコンピューター上で加工し再構築していきながら独自のフリーセッションを試みるバンド、mimiZのメンバー。ライブ活動のほか、実験映像作品への楽曲提供も数多くこなす。2004年にはドイツ、オーストリア、イタリアなどでツアーを敢行し、国内外で発表の機会を得ている。Max/MSPの日本語解説書「Max Book」の翻訳メンバーとして翻訳も手掛けた。2004年から清水研作氏と「音空間創造プロジェクト」を立ち上げ音響作品の研究を進めている。代表作に「アナグラオン変奏曲 -四つの三角形による-」(Ars Electronica 2004, オーストリア)「compasses」(telocentrip_vol3、東京)など。作曲を三輪眞弘氏に師事。今回は歌を音響的に加工するにコンクリート作品等を予定(ソプラノ 田辺千枝子)。

田口 雅之 / TAGUCHI, Masayuki

1982年新潟生まれ。作曲家。16才の頃からデスクトップミュージックを始め、同年、NHKラジオによるデスクトップミュージックのコンテストでグランプリを獲得。高校卒業後、作曲を学ぶために新潟大学に入学、清水研作氏の研究室に所属し作曲を学ぶ。大学在学中よりプログラミングを用いた作品にも取り組み、卒業研究ではワイングラスとスプーンで奏でる音にMax/MSPによるリアルタイム音響処理を交えた作品、「追憶グラス」を制作。2004年、教育人間科学部定期演奏会にて同作品が発表される。また、新潟日報文豪名作シリーズ、古町音楽祭などのCMで音楽制作も手掛けるなど活動の幅を広げている。大学卒業後は独自の創作活動を展開する一方で、2005年からは新たに「音空間創造プロジェクト」のメンバーに加わり音響作品の研究を進めている。

出演者

清水 理恵 / SHIMIZU, Rie (フルート)

桐朋学園大学卒業後渡米。ボストン大学大学院修士課程修了。在米中よりソリスト・室内楽奏者として活動する一方、ボストン、ニューイングランド・チェンバー・オーケストラにて活躍。帰国後「現代室内楽コンクール競奏II」第3位及びフォルテ・ミュージック賞受賞。その後フランスの音楽祭などに招聘されリサイタルや新曲初演を行い、著名な演奏家と共演。95年よりソニック・スペクトラ・チェンバーズを主宰し、個性的な室内楽の演奏会を開催している。「アンサンブルNcube」メンバー。ヴェリタス音楽館、パウエルミュージックアカデミー、および新潟中央高校において後進の指導にもあたる。CD「Three Water Colors」

和田 朋子 / WADA, Tomoko (朗読)

柏崎市出身、國學院大学文学部日本文学科卒業。昭和62年4月BSN新潟放送入社 アナウンス部に7年間勤務の後、フリーとなる。現在は、BSNラジオニュース、ナレーション、司会などで活躍中。